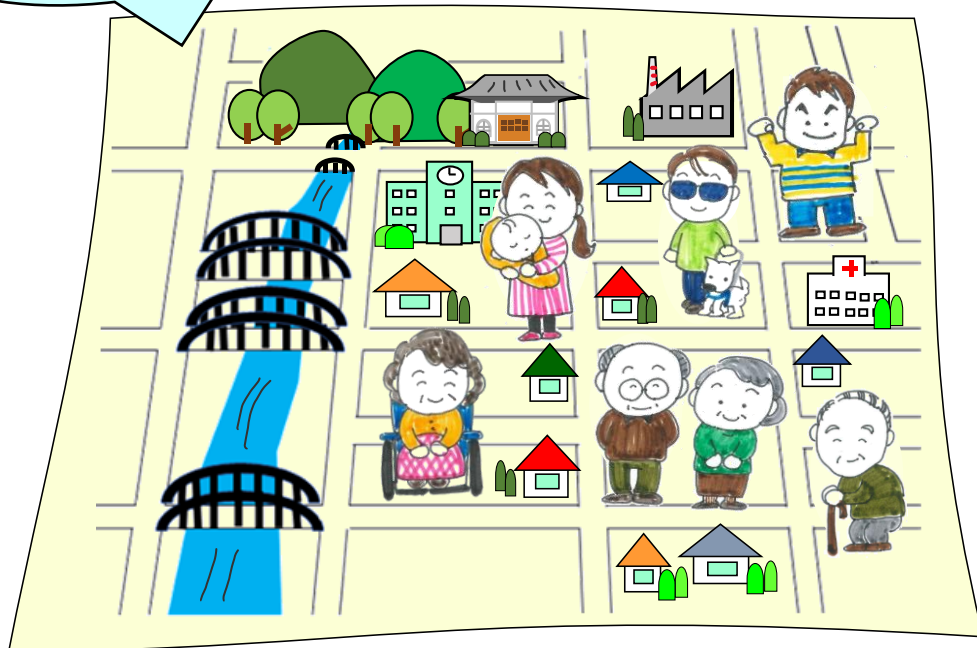


# 災害時住民支え合いマップ 作成マニュアル

逃げ遅れ ゼロ  
を目指して！



社会福祉法人安曇野市社会福祉協議会

## 【目 次】

1. 災害時住民支え合いマップとは？ .....	2
2. マップ作成の目的 .....	2
3. マップ作成の効果・メリット .....	3
4. マップにのせる情報について .....	4
5. 作成手順・準備品 .....	6
6. 個人情報の基本的な取り扱いについて .....	9
7. マップの活用と更新 .....	11
8. Q&A .....	12
資料① 依頼文(例) .....	13
資料② 支え合いカード(見本) .....	14
資料③ 平成 30 年豪雨を踏まえた水害・土砂災害 からの避難のあり方について(報告).....	16

## 1. 災害時住民支え合いマップとは？

災害時・緊急時に支援が必要な方に対して普段から、  
いつ、だれが、どのように  
安否確認や避難行動の支援などをするのか

- ① みんなで話し合いをすること
- ② 話し合った結果を地図に書き込むこと
- ③ 必要な人を支援するための計画を作ること

この3つの手順をふまえて出来上がったものを

**「災害時住民支え合いマップ」**といいます。(以下「マップ」と略称)

### 【マップイメージ図（例）】



## 2. マップ作成の目的

- ① 災害時に支援が必要な人の逃げ遅れゼロを目指す
- ② 安否確認や見守り活動など、日頃の支え合いや顔が見える関係をつくる
- ③ 一人ひとりが当事者意識を持って災害に対応する地域をつくる

### 3. マップ作成の効果・メリット

- ① 地域全体の情報を視覚的にイメージしやすい
  - ② 災害発生時に情報共有しやすい
  - ③ 外部支援者へ救出依頼がしやすい
  - ④ 平時における見守り体制の構築や支えあい活動の推進が図られる
- マップを作成していないと…
    - ・ 災害発生時や避難指示がでたときに空き家にまで声をかけ、余計な時間がかかってしまいます。
    - ・ 救助に入らなければならない家がわからず、救助の効率が悪くなってしまいます。
  - マップにハザード情報を重ねると効果的！
    - ・ 洪水や土砂災害などの危険な地域が一目でわかり、避難や救助の優先順位をつけることに役立ちます。
  - 平時からの支えあいに
    - ・ 「災害時」だけでなく、平時においても地域での支え合い活動が進められることを期待します。
    - ・ マップ作りを通じて、日常的に顔の見える関係をつくりましょう。
    - ・ いざという時は、誰もがパニックになってしまう可能性があります。「顔が見える。顔がわかる。」ことが安心感につながります。

参考資料：「災害時住民支え合いマップ」と防災に関連したマップの種類



防災マップ（市）

#### ◀ 防災マップ（市）

ハザード情報や避難所、災害・防災に関する知識などの情報を掲載。  
令和3年改訂 全戸配布されている。

#### 防災マップ（区）▶

隣組ごと色分けされ、区内の避難場所や消火栓などの情報を掲載。主に自主防災組織で作られていることが多い。  
ふれあいマップと呼ばれる場合もある。  
(区によって名前が異なる)



防災マップ（区）  
(※作成していない区もある)

## 4. マップにのせる情報について

### (1) 必要な情報

#### ① 要支援者

- ・災害から避難するうえで身体的、情動的(聴覚障がい・視覚障がい等)に支援が必要な人。

例：高齢者（一人暮らし高齢者、高齢者世帯、要介護度認定を受けている方、寝たきり、認知症、昼間一人になる高齢者）、障がい者、傷病者、外国人、乳幼児、妊婦など

上記例の中でも支援を必要としない方もいます。  
地域で話し合っ、支援が必要な方をマップに  
載せてみましょう。



また、安曇野市社協では要支援者を更にABCにランク分けをして載せることを  
お勧めしています。（詳しくは「P 5（2）ABCランク分けとは？」を参照）

#### ② 支援者

- ・要支援者を支援（声かけ、安否確認、場合によっては一緒に避難）する人。
- ・区の役員だけでなく、だれでも（要支援者以外の方）支援者になることができます。  
近所に住んでいる方や、高校生、中学生、近くの工場などの会社に勤めている方も支援者になり得ます。

#### ③ 避難所・避難場所

- ・防災マップ掲載の指定避難所、指定緊急避難場所のほか、防災マップに掲載されていない域内の高い建物、高台など載せるとなおいでしょう。

**高台に避難  
してください**

#### ④ 社会資源

- ・AED・医療機関・介護保険事業所、消火栓、重機、工場、高校など。

（工場や高校は支援場所、支援者になり得ます。例えば、発災時に大勢の人が避難するには広い場所が必要になりますし、救助には多くの人手が必要になります。昼間に多くの若い人が勤務・在学している工場・高校は有効な社会資源になり得ます。）



#### ⑤ 空き家

- ・空き家を把握することによって災害時に避難・支援の効率が高まります。



※ 他にも避難ルート、ハザード情報も掲載するとより精度が高まります。



## (2) ABCランク分けとは？

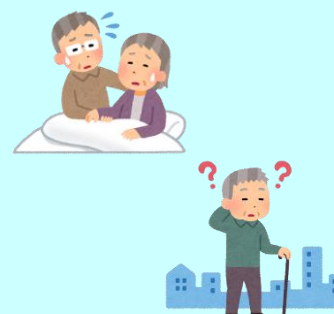
要支援者に優先順位をつけ、より避難時の支援の効率化を図る方法です。

要支援者を3つのランクに分け、それぞれのランクのシールをマップに貼ります。

### Aランク：赤色 … ●

#### 歩いての避難が困難で、区や隣組の支援が必要な人

- ・動けない人（寝たきり・医療器具を常に使用）
- ・自立生活が困難な人
- ・介護度が高い、障がい重い人
- ・判断ができない人、意思疎通が難しい人



### Bランク：黄色 … ●

#### 歩いて避難が可能だが、区や隣組の支援（付き添いなど）が必要な人

- ・声かけと手引きにより、自分で避難・生活ができる人
- ・介護度が軽い、障がいが軽い人
- ・妊婦や小さな子供を複数抱えた保護者など



### Cランク：緑色 … ●

#### 歩いて避難が可能だが、区や隣組の支援（声かけなど）が必要な人

- ・独居高齢者であっても足腰が元気で、声かけにより自ら避難ができる人
- ・外国人



※ ランク分けの色は、医療トリアージを参考にしています

※ Aランクの方については本人の意向も踏まえて支援の方法等について話し合っておきましょう。

👉 ABCにランク分けすることにより、個別の支援方法を事前に備えておくことができます。

#### 【例えば…】

支援者になっているけど一度に5人も助けられない！  
しかも寝たきりで移動に車いすを使っているおばあちゃんを  
一人で助けるには自分には負担が重すぎる！…どうすれば…



Aさんの支援方法  
近所の〇〇さん看護師  
ワゴン車を〇〇さんが  
持ってた  
力のある男性5人と…  
避難先は…

Cランクの3人は電話で声をかければ自分で逃げられそうだな…。

Bランクの人とは一緒に逃げる必要がありそうだな…

Aランクの寝たきりのおばあちゃんはとても一人では助けられない…

だから … 地域にある人や物等の社会資源を使って安全な場所に避難  
する方法を、事前に関係者等で検討しておこう！



※ 「安曇野市避難行動要支援者名簿」の情報だけでは、ABCランクに分けることは困難です。

具体的な情報収集の手順については、次章の「作成手順・準備品について」をご覧ください。

## 5. 作成手順・準備品

### ◆ 作成手順（例）

#### （１）事前打ち合わせをする

まずは、区の関係者で集まってマップを作るための話し合いを行います。

##### 【参加者】

区長、地区社協会長、自主防災組織、民生児童委員など、マップ作りを進めるのに必要な人

##### 【打ち合わせ内容】

- ・ マップ作成の範囲（区、常会、隣組）、情報の集め方、作成スケジュール
- ・ マップの取扱方法（公民館に貼る必要はある？ どの単位でだれが保管する？ 全員保管しておくべき？ どこにどのように保管するのがいいのか？ など）

#### （２）地図を用意する

各区の実情にあわせて必要な地図を用意します。

- ・ 白地図…建物の形のみで名称や戸別名は入っていない地図  
都市計画課にお問合せください（TEL 7 1 - 2 2 4 6）
- ・ 住宅地図…戸別名が表記されている地図
- ・ 市 HP「あづみのマップ」…電子地図を利用した市内の公共施設サービス

#### （３）住民へ周知する

「災害時住民支え合いマップ」を知らない住民もいるので、何の目的でどのようなものを作るのか、住民にはどういったことを協力してほしいのか周知を行います。

（説明会の開催、回覧板、区の広報誌など）



#### (4) 情報を収集する

具体的な支援方法を考えるには詳細な情報を集めることが大切です。また、「避難行動要支援者名簿（詳しくはP10 参照）」には要支援者全ての方の情報が掲載されてはいません。要支援者の情報収集には以下の方法があります。

##### ● 聞き取りによる情報収集

- ・ 要支援者本人、家族  
(以下 要支援者の生活ぶりをよく知る人)
  - ・ ケアマネジャー、地域包括支援センター、デイサービス、ヘルパー、かかりつけ医などの支援機関
  - ・ 民生児童委員・近所の人・友だち、仲のいい人
- ※どのような内容を聞き取るのかを事前に整理しておきましょう。

##### ● 「支え合いカード」による情報収集

もし個々の聞き取りを行うのが大変であれば、隣組長の協力を得て「**支え合いカード**」を配布し、住民の同意を得て記入・提出してもらい情報を集めるといいでしょう。

「支え合いカード」とは「マップに記載する情報を得るための調査書兼同意書」です。

- ・ (3) で住民に周知を行ったら「支え合いカード」を配布します。
- ・ 「支え合いカード」は決まった様式はなく、地区で必要な項目を決め独自で作成します。(見本参照)
- ・ 配布回収は区ごとのやり方になります。

例えば隣組長に回収してもらい、常会長→区長が取りまとめを行う方法もあります。

#### 👉 「支え合いカード」のメリット

一軒一軒聞き取りが大変でもカードなら配って記入してもらうことができます。

支えあいマップの「調査書兼同意書」とすることで個人情報の同意を得ることが可能です。

#### 👉 「支え合いカード」を活用して支援者を募ることが可能です!!

「支え合いカード」の一つの活用方法として、全世帯に配布し助けが必要な人だけでなく助けに行けるという人もカードを出してもらうことで、支援者の把握に繋げることができます。



責任

要支援者の情報を集めても支援する人がいない！  
マップを作っても結局は区の役員が何人も担当しなくてはならない!!  
支援者の負担が重い… いざという時に早く助けられるか不安…

「近隣に要支援者がいることを知っていますか？」  
「どんな支援ができますか？一緒に逃げる/声かけ/…など」

そこで…「支え合いカード」で情報収集することで、マップにその支援者の情報を落とし込むことができるので、災害時により役立つマップを作ることができます。

※支援者の選定については支援者の承諾が必要となります。

支え合い  
カード





## (5) マップを作成する

区のマップ関係者で、集まった情報をもとにマップを作成します。

(区長、常会長、地区社協会長、民生児童委員、自主防災組織、健康推進員など)

<準備品>

- ・避難行動要支援者名簿 ・「支え合いカード」
- ・防災マップ (ハザードマップ) (地区防災マップ)
- ・筆記用具 ・丸シール (シールの色は下記【マップのイメージ例 (例)】参照)

- ① 「避難行動要支援者名簿」、「支え合いカード」、「防災マップ」や民生児童委員、近所の人の情報をもとにカラーシールで印をつけ、マップ上で位置を確認できるようにします。  
あらかじめ対象者の範囲を決めている場合は、それらに応じて記入します。  
※ABCにランク分けをする場合は、P5のとおり要支援者を3つのランクに分けておきます。
- ② 支援者の確認ができていればそれもわかるように記載します。
- ③ 避難場所と社会資源にも印をつけてわかるようにしておきます。  
(指定避難場所、指定されていないが一時的に避難できる場所、高い建物など)  
(AEDがある施設・医療機関・介護保険事業所、消火栓、重機、工場、高校など)
- ④ その他、記載できる情報があれば書き込みます。  
(空き家、避難ルート、ハザード情報、危険場所など)

## 【マップイメージ図 (例)】



## 6. 個人情報の基本的な取り扱いについて

参考：個人情報保護に関する法律（以下：個人情報保護法という）

### （１）個人情報とは？（個人情報保護法 第２条）

氏名・生年月日・住所・電話番号など、「特定の個人を識別することができる情報」のことです。  
個人情報保護法に基づき、個人情報の取り扱いには注意が必要です。

### （２）個人情報保護の目的（個人情報保護法 第１条）

「個人情報の有用性に配慮しつつ、個人の権利利益を保護すること」です。  
情報を適切に取り扱うことを常に意識しつつ、**「生命や身体の安全」を守るために有効に活用することが大切です。**

### （３）個人情報取り扱いの基本ルール

#### ① 個人情報の取得・利用するとき（個人情報保護法 第１７条～２１条）

- ・ 具体的な利用目的を決め、目的以外に利用しない。
- ・ 情報は適正に取得し、利用目的を本人に明らかにする。
- ・ 「要配慮個人情報」には特に注意する。

（人種、信条、病歴など本人に対する不当な差別や偏見が生じる可能性があるもの）

#### ② 個人情報を保管するとき（安全管理）（個人情報保護法 第２２条～２６条）

- ・ 情報の漏洩や紛失などを防ぐために安全に管理し、情報を扱う役員等の監督をします。
- ・ 情報が正確かつ最新の情報になるように努力し、不要な情報は消去するよう努めます。

#### ③ 個人情報を他人に渡すとき（第三者提供の制限）（個人情報保護法 第２７条）

- ・ 第三者に個人情報を渡すときは、原則として本人に事前に同意を得なければいけません。
- ※ただし、本人の同意がなくても個人情報を提供できる場合もあります。（詳細は（４）に記載）

#### ④ 本人から個人情報の開示を求められたとき（個人情報保護法 第３３条～３５条）

- ・ 苦情等の申出先をあらかじめ明示しておきます。
- ・ 本人から請求があった場合は、保有する情報の開示・訂正・利用停止等を行います。

### （４）本人の同意なしに個人情報を第三者に提供できる場合（個人情報保護法 第２７条）

#### ① 法令に基づく場合

- ・ 警察や裁判所、税務署などの公的機関から法令に則った要請など（公共の福祉の優先）

#### ② 人の生命、身体や財産の保護に必要な場合で、本人の同意を得るのが困難なとき

- ・ 災害時や、輸血のために血液型や病歴を知る必要がある場合など

#### ③ 公衆衛生の向上、児童の健全育成推進のために特に必要な場合で、本人の同意を得るのが困難なとき

- ・ 虐待を受けている子どもの情報を関連機関（学校、保護施設、警察など）で共有する場合など

## **（５）「避難行動要支援者名簿について」**

避難行動要支援者名簿(以下:名簿)は、災害対策基本法に基づき市町村に作成が義務付けられているもので、災害が発生した際に自ら避難することが困難と思われる方を登載しています。

このうち、自身の情報を支援機関へ提供することに同意した人の名簿が市から区等へ提供され、災害時に備えた見守り活動やマップの作成、災害時の安否確認や救助活動等に活用します。

名簿の情報について共有できる範囲は、**行政区・民生児童委員・安曇野市社会福祉協議会・松本広域消防局・長野県警察** となっています。

※上記範囲外の方が平时に名簿およびマップを見る場合は、改めて用途に応じた同意を得る必要があります。(例:完成したマップを全戸配布する、公民館に掲示するなど)

## **（６）災害時における個人情報の取り扱いについて**

災害対策基本法 49 条の 11 によると「災害が発生、または発生するおそれがある場合、要支援者の生命または身体を災害から保護するために必要なときは、支援に必要な限度で名簿の情報を支援関係者に提供できる」とされています。

この場合、名簿の情報を提供することについて本人の同意を得る必要はありません。

## **（７）「支え合いカード」について**

**① 支え合いカードでは個人情報を取り扱うことになるので、次の事項を明記します。**

- ・情報の利用目的（何に使用するか）および提供先（共有範囲）
- ・支え合いカードの原本およびマップの保管者、保管場所
- ・取り扱い担当者（問い合わせ先）

**② ①の事項についての同意欄を設け、必ず署名で同意を得てください。**

※口頭で同意を得る方法もありますが、後日トラブルにならないためにも書面をお勧めします。

## 7. マップの活用と更新

### (1) マップの活用について

#### ① 災害時の避難や救助

- ・災害時に支援が必要な人の逃げ遅れゼロを目指します。

#### ② マップを使った避難訓練の実施

- ・地震や水害など、様々な災害の想定をして訓練を行います。  
(安否確認、避難誘導、事前避難、避難経路の確認、図上訓練など)

#### ③ マップの見直し

- ・避難訓練後に改めて話し合ってマップの見直し等を行い、いざという時の有効性を高めます。

#### ④ 日常的な見守り、支え合い体制の構築

- ・マップ作りをきっかけに、日頃の支え合いや見守り活動につなげましょう。

### マップができれば安心？ ～顔が見える関係の重要性～

「ある台風災害時のお話」

難聴のひとり暮らしの人が自宅にいたところ、近所の人が血相を変えて窓を叩いていた。

窓を開けてどうしたか聞くと「危険が迫っているから早く逃げろ」と言われ、

初めて命の危険が迫っていることがわかった。

テレビの情報だけでは緊迫感がわからなかった…

もしこれが、ひとり暮らしの女性で、夜中に知らない男性が  
突然血相を変えて窓を叩いていたら、この方は窓を開けるだろうか…

普段から「顔の見える関係づくり」が必要なことがわかります。

「顔が見える・顔がわかる」ことが、いざという時の安心感につながります。



### (2) マップの更新について

#### ① 1年に1回は更新しましょう（地域の状況に合わせて）

- ・住民の変化は速く、地域はどんどん変化していきます。(人口減、転居、施設入所、妊産婦等)
- ・更新するときは避難行動要支援者名簿を確認し、前回マップに載せられなかった方に個別に声をかけましょう。
- ・新しく地域へ来た方には、共助への参加を呼びかけるきっかけになります

#### ② マップのデジタル化について

- ・マップのデジタル化が可能なアプリがリリースされています。
- ・デジタル化することによってマップの更新がスムーズになります。

#### ③ 必ず引継ぎをしてください

- ・毎年更新するためには、区の役員等が変わる際にマップの所在も含めて、必ず引継ぎが必要です。

## 8. Q & A

Q. マップのデジタル化は可能ですか？

A. デジタル化が可能なアプリがあります。

例えば、長野県社会福祉協議会より「防災福祉カンタンマップ」というアプリがリリースされています。

A B C ランク分けやハザード情報、避難所等の資源もデジタル上の一つのマップで管理することで要支援者の避難時のリスクや災害時の情報が一目でわかります。またスマホと連携する機能で安否確認も瞬時に行うことが可能です。

更新・引継ぎの負担を軽減することができるため、当会でも導入を検討しています。

会費（1 アカウントごと）月額 2,980 円

初期導入費用 5 万円（作業内容により割引あり）

問い合わせ先 長野県社協・まちづくりボランティアセンター（TEL 026-226-1882）

Q. 社協職員にマップ作成を手伝ってもらうことはできますか？

A. ぜひ社協職員にお声がけください。

実際にマップを作成するのは区の皆さんになりますが、区の説明会に伺っての説明や、作成時の助言など、社協職員にできることはぜひお手伝いさせてください。

Q. 印刷代などマップ作成に係る費用を助成してもらえますか？

A. 「地区社協特別活動事業配分金」をご活用ください。

災害時住民支え合いマップの作成・見直しに係る費用（会議、調査、広報、印刷、配布、保管、講習会等）として、1 地区 10 万円を限度にご活用いただけます。



## 資料①

(例：依頼文)

〇〇区のみなさまへ

〇〇区  
区長〇〇

### 「災害時住民支え合いマップ」更新への協力をお願い

日頃より、〇〇区の活動にご理解ご協力をいただきありがとうございます。

〇〇区では、災害に強い地域づくりを目指し、災害発生時に高齢者や障がい者、子どもといったいわゆる災害弱者に対する安否確認や迅速な行動支援を共に行う備えとして「災害時支え合いマップ」を作成し、毎年見直し更新を行っております。

災害時住民支え合いマップは、災害時はもとより地域の高齢者への見守りなど地域福祉活動にも役立つもので、マップの更新にあたり地域の皆様を対象に調査を行い、班(組)ごとの話し合いなども実施する予定です。

マップの作成にあたっては、個人情報の扱いには十分配慮しますので、趣旨をご理解いただき皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

### 問い合わせ先



## 資料②（表）

※記入にあたっては裏面をご確認ください。

### 支え合いカード

災害時住民支え合いマップ作成調査書兼同意書

記入日 年 月 日

記入者署名

見本

氏名 (世帯主)	社協 太郎	地区	常会	隣組
住所	安曇野市●● 123-4			電話 0236-〇〇-△△△△

家族No.	(ふりがな) 氏名 【日中等連絡先】	年齢 性別	災害時に支援が必要【必要な時間帯】			家族以外の人を 支援できる【時間帯】	
			歩いての避難が 困難で区や隣組 の支援が必要	歩いて避難可能 だが区や隣組の 支援(付き添い 等)が必要	歩いて避難可能 だが区や隣組の 支援(声掛け等) が必要	声かけ 安否確認	一緒に 避難可能
1	しゃきょう たろう 社協 太郎	85	○				
	090-1111-2222	男	平日の日中				
2	しゃきょう うめ 社協 梅	81			○		
		女			平日の日中		
3	あづみ いちろう 安曇 一郎	50				○	
	090-2222-3333	男				平日日中 以外	
4	あづみ はなこ 安曇 花子	48				○	
	090-5555-6666	女				平日日中 以外	
5	あづみ あおい 安曇 葵	12			○		
	090-7777-8888	女			学校が休みの平日		

家族No.	支援が必要な方の具体的な状況・特記事項をご記入ください。
1	移動に車いすを使用だが妻だけでは車いすに移せない 日中は高齢者のみのため手助が必要
2	耳がとおく補聴器を使用 情報を得るのが困難 夫の移動は一人ではできない
5	放課後や学校が休みの平日は家にいるのは高齢者と子どものみ

緊急連絡先(お一人暮らしの方)		
1	氏名	
	住所	
	電話	
2	氏名	
	住所	
	電話	

### 支援者の情報

※ 家族以外の支援が必要な方で、支援していただける方が決まっている場合は記入してください。 但し、支援者の承諾が必要となります。

支援者① (ふりがな) 氏名		住所		電話番号	
支援者② (ふりがな) 氏名		住所		電話番号	

## 資料②（裏）

### ※「支え合いカード」記入上の注意

災害時住民支え合いマップの作成・更新にあたり、住民の皆様を対象に調査をさせていただきます。

「支え合いカード」に必要事項をご記入ください。【世帯全員の状況についてご記入ください。】

#### ①避難の際に支援を受けたい方

・基本的にはご家族で避難等が可能でも、時間帯により支援が必要な場合も必要な時間帯等と合わせて、必要な支援に○を付けてください。

・お一人暮らしの方は緊急連絡先に、連絡をしてほしい方の氏名・住所・電話番号をご記入ください。

#### ②避難の際に支援できる方

・ご家族以外の方の支援が可能な方は、可能な時間帯と合わせてできる支援に○を付けてください。

#### ③支援者情報について

・ご家族以外の方の支援が必要な方で、すでに支援が決まっている方は支援者の承諾を得て情報に氏名・住所・電話番号をご記入ください。

・ご家族以外の方の支援が必要な方で、支援者が決まっていない方はこの調査票をもとに地区および該当者と話し合い、支援者を決めさせていただきます。

## ご 確 認 く だ さ い

この内容を、「災害時住民支え合いマップ」の作成及び災害時・緊急時の支援における支援活動に使用することに同意します。

☐ はい      ☐ いいえ

※ 関係機関への情報提供は、災害時・緊急時において、救助・支援を目的とする場合のみ行います。

※ 「いいえ」とお答えいただいた場合は、安否確認や支援等が遅くなる場合があります。

※ この調査票は関係者に法的な責任や義務を負わせるものではありません。

・このカードは、原本を〇〇(例:区長・常会長・組長)が保管し、「災害時住民支え合いマップ」のみに使用し、事前に定められた〇〇(例:区役員・民生児童委員)が取り扱えることとします。

・完成した「災害時住民支え合いマップ」は〇〇(例:区長・常会長・組長)が一部ずつ保管します。

・支援の方法などについては、後日役員が確認に伺う場合があります。

この調査に関するお問い合わせは、\_\_\_\_\_〇〇〇\_\_\_\_\_までお願いします。

## 資料③

平成 30 年豪雨を踏まえた水害・土砂災害からの避難のあり方について（報告）

（平成 30 年 12 月 26 日 中央防災会議公表）

【国民の皆さんへ～大事な命が失われる前に～】

- 自然災害は決して他人ごとではありません。「あなた」や「あなたの家族」の命に関わる問題です。
- 気象現象は今後更に激甚化し、いつ、どこで災害が発生してもおかしくありません。
- 行政が一人ひとりの状況に応じた避難情報を出すことは不可能です。自然の脅威が間近に迫っているとき、行政が一人一人を助けに行くことはできません。
- 行政は万能ではありません。皆さんの命を行政に委ねないでください。
- 避難するかしないか、最後は「あなた」の判断です。皆さんの命は皆さん自身で守ってください。
- まだ大丈夫だろうと思って亡くなった方がいたかもしれません。河川の氾濫や土砂災害が発生してからではもう手遅れです。「今、逃げなければ、自分や大事な人の命が失われる」との意識を忘れないでください。
- 命を失わないために、災害に関心を持ってください。
  - ・あなたの家は洪水や土砂災害等の危険性は全くないですか？
  - ・危険が迫ってきたとき、どのような情報を利用し、どこへ、どうやって逃げますか？
- 「あなた」一人ではありません。避難の呼びかけ、ひとりでは避難が難しい方の援助など、地域の皆さんで助け合いましょう。行政も、全力で、皆さんや地域をサポートします。

# 災害時住民支え合いマップ作成マニュアル

令和4年 11 月作成

ご不明な点はお気軽にお問合せください

## 社会福祉法人安曇野市社会福祉協議会

本 所 〒399-8205 安曇野市豊科 4160-1

TEL **0263-72-1871**

豊科支所 〒399-8205 安曇野市豊科 4027-3

TEL **0263-73-7143**

穂高支所 〒399-8205 安曇野市穂高 5808-1

TEL **0263-82-2940**

三郷支所 〒399-8203 安曇野市三郷明盛 2198-1

TEL **0263-77-8080**

堀金支所 〒399-8205 安曇野市堀金烏川 2132-6

TEL **0263-73-5288**

明科支所 〒399-8205 安曇野市明科東川手 606-2

TEL **0263-62-2429**

※ この「災害時住民支え合いマップ作成マニュアル」は、安曇野市社会福祉協議会ホームページからダウンロードできますので、ご活用ください。

